

37 各務鑛三 花紋硝子花瓶

一点

昭和前期 ガラス  
径二一・〇 高三五・五

各務鑛三（一八九六—一九八五）はわが国で初めて良質なクリスタル・ガラスを製作し、近代ガラス工芸を確立した第一人者として大きな足跡を残した作家である。東京高等工業学校で図案を学んだ各務は、大正七年に南満洲鉄道株式会社に入社、同社の中央試験所でドイツ人技師ルドルフ・イエーナよりガラス技法を学び、昭和二年にドイツのシュトゥットガルト工芸学校に留学してヴィルヘルム・フォン・アーフ教授に師事してクリスタル・ガラスの研究と制作を行つた。

本作は透明のガラス地に紫色の被せガラスを薄く重ねて二層とし、その表面をグラヴュール技法で深く削り取つて文様を表している。器體中央にチューリップと思しき様式化された花を帯状にめぐらせ、その周囲にも小花を散らしている。主文様の花は雄蕊と雌蕊を除いて磨りガラスにして光沢を抑え、紫の被せガラスとともに淡く上品な仕上がりを見せている。アール・デコ様式の影響が見られる図案の特徴などから昭和十年前後に制作された可能性が高いが、戦前の各務の代表作はほとんどが失われており不明な部分が多い。昭和二十四年四月に昭和天皇ならびに香淳皇后が秩父宮家の御殿場御別邸に行幸された際に、雍仁親王が御拝領になつたという伝来を持つ。

- ・各展覧会図録中、作品名や作者、制作年などの表記は、図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出典を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代——大正・昭和初期の美術工芸  
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 横溝廣子  
発行 宮内庁  
平成二十二年三月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections